

関連項目：教育活動プラン①

縦割り班で体験した様々な活動を通して、自己有用感や自尊感情を育む

目的

本校は、三木町の南部に位置し、全校生128名の小規模校である。香川県として最初となるコミュニティ・スクールの取り組みの中で、確かな学力・豊かな心・健やかな体の3部会と地域の教育力との協働により、よりよい学校をめざし取り組んでいる。特に豊かな心部会では、本校のめざす児童像である「なかよく助け合う子ども」「きまりを守る子ども」をめざし、様々な体験活動を実践している。ここではその中の「サマースクール」を取り上げる。

内容

● 「伝えあう力」「人間関係を調整する力」の育成

比較的時間のゆとりがある夏季休業中を利用して地域の方々や保護者、学年を超えた友だちと共に五感を使った体験活動を行う。この取り組みは学校と保護者、地域の方々が組織する学校支援隊で体験するコースを企画する。その様々なコースを体験をする中で、本校の子どもたちの課題である「伝えあう力」「人間関係を調整する力」の育成をねらっている。

学年の枠をはずして子どもが希望する講座への参加としているため、子どもたちは意欲的に活動に取り組んでいる。また、保護者も講座での活動全般を子どもに任ず、見守る、共に学ぶ時間であることを意識して参加できている。様々な活動を通して、認められたり役に立つ喜びを味わったりすることで、自己有用感や自尊感情を育むことにつながると考える。

● 児童自らが計画する体験活動

<事前学習>

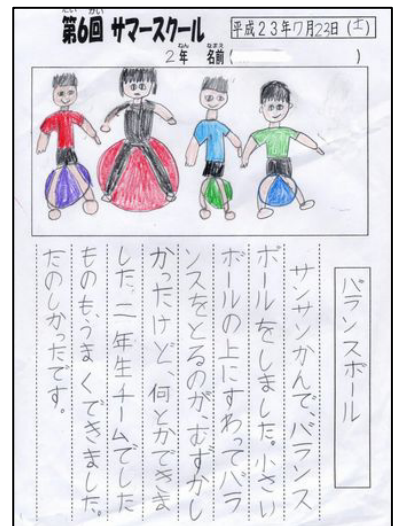
最初に、希望するコースごとにグループを作り、各コースの活動内容を確認し、役割や約束を決めた。次に、グループの高学年を中心に、あいさつ係、質問内容の検討、事後発表者など、細部にわたり児童自らが計画し、一人一人が目的をもって活動できるようにしている。

<当日> 7月下旬～8月上旬で11コース

【海猿体験教室】



【うどん作り教室】



<事後活動>

各自が活動を振り返って自己評価を行い、感想を絵カードにまとめ、全校生の表現物を中央廊下に掲示した。また、活動に参加した保護者のコメントもいただき掲示した。さらに、9月には報告会を開き、活動の様子や体験から学んだことを全校生や保護者に発信し、各コースどうしで交流を図った。

【全校掲示】



【事後の発表会】



成果

各コースで集まった異年齢の子どもたちが話し合い、役割分担をして活動したり、高学年が自覚を持ってリーダーシップを発揮したりすることで、自分に任されたことを『やり遂げられた』という満足感が得られ、大きな自信となったようだ。また、児童自らが選んだコースで、指導者や保護者とコミュニケーションを深めながら活動することによって、充実感を味わうことができた。さらに、事後の報告会では、他のグループの発表を聞いて質問したり、発表に対する自分の感想や意見を述べたりすることもできるようになり、コミュニケーション能力も高まってきている。

今後も、コミュニティ・スクールの活動を通して、子どもたちが様々な人々と関われる場を数多く設定しながら、自尊感情や自己有用感を高めていきたい。